

市議会6月定例会

大館地区多目的ドーム(仮称)

7月からパークセンター建築工事はじまる

第3次大館市総合開発計画

後期基本計画の策定

市議会六月定例会が六月五日に招集され、小畑市長が行政報告をしました。その中から、主なものの要旨をお伝えします。

第三次大館市総合開発計画後期基本計画の策定にあたり、市民の意見を計画に反映させるため、公募した五人を含めた各層のかたが

た三十人で市民懇談会を組織して審議いただき、大変貴重なご意見を賜りました。この計画は、平成三年度を初年



度、十二年度を目標年度としたもので、七年度までの前期基本計画との整合性を図りながら、八年度から十二年度までを計画期間と定めたものです。二十一世紀初頭の望ましい大館市の姿として、目標人口を七万人と定め、県北の中心都市にふさわしい諸施策を五つ挙げています。

一点目として「健康で明るく、うるおいのある福祉都市の実現」を目指し、高齢化社会に対応するため秋田県北部老人福祉総合エリアの整備、初期救急医療に対応するための休日夜間急患センターの設置等を進めること。二点目は、「若さと活力に満ちあふれている産業都市の実現」として、農業の国際化に伴う生産・流通体制の整備、工業団地の整備と企業誘致、リサイクル・メイン・パーク構想の推進等を。三点目は、「自然と調和し、住みやすさが保たれている快適環境都市の実現」として、水量調整など多目的に利用する長木ダム建設、日本海沿岸東北自動車道の早期完成。四点目は、「学習

の機会が保障され芸術文化の香り高い生涯学習都市の実現」として、情報化社会に対応できるように小・中学校へのコンピュータの導入、大館地区多目的ドーム(仮称)の利活用の充実、平成十九年開催の秋田国体への対応。五点目は、「広域圏の中核として、都市機能が高度に蓄積されている情報・交流の拠点都市の実現」として、米代川流域十八市町村及び企業・団体等と連携を図った大館能代空港の利活用の促進、ふるさと市町村間基金を活用した人材育成、地域間交流等の推進を挙げています。

これらの施策を実現していくためには多くの財源が必要となりますが、地方行政を取り巻く環境がきわめて厳しい状況にあることを認識しながら、鋭意努力していきます。

知事の市町村

懇談会について

知事が広く県民の意向を把握するとともに、県政への理解と協力を得る目的で開催している「知事の市町村懇談会」が五月二十四日、当市で行われました。当日は、市民各層から七人と市議会議長、私の計九人が出席しました。

懇談会は、出席者が述べる要望・意見等に知事が直接回答するという形で進められ、県政の方向が確認でき、大変有意義であったと認識しています。